きっかけは街のある人の一言
「無くなってしまうと、何十年と
この街に暮らしている私たちでも、
そこに何があったのかわからなくなるの…」
何も無くなってしまった更地　そこに力強く根付く植物たち
何事もなかったように穏やかな海　その海で生きると決めた漁師たち
取り壊されていく病院 時が止まったままの小学校
どんどん小さくなる瓦礫の山　新しい家　新しい工場

消えゆく景色　そこにあり続ける景色　新しく始まる景色
夜の終わりと一日のはじまり　やさしい朝の空気の中　そこに浮かび上がる
石巻の今　10年後…　20年後…
きっとあの日のこと　そこから立ち直った新しい姿には関心が集まるだろう
だけど　その過程で　消えていくもの
生まれていくものを　どこまで記憶しておくことができるだろうか
今を生きるこの街を記録すること　そしてそれを伝えることは
これからの未来にとって　とても大切なことだとおもう
だから僕は朝に向かって　明るくなっていく　今の石巻を撮り続ける

『いしのまきのあさ』のシリーズは2013年1月より現在まで東日本大震災の被災地・宮城県石巻市を日の出の時間帯に撮り続けている作品です。2013年当時の石巻は震災の暗闇から復旧が進み、少しずつ明るさを取り戻しつつあり、街の景色も大きく変化していた時期でした。そのような状況と夜明けの時間帯とが同じように感じ、朝の石巻の風景を撮影し始めました。夜から朝に変わる一瞬、黒い闇は太陽の光によって溶け出し、次第に青みを帯びていきます。母なる海と父なる空。青は新しい命を生み出す力を持つ色です。大いなる海と空に抱かれた石巻は青に宿るその力にあふれているように感じています。一日のはじまりの青い空気の中、変わることなく続く自然の営みと、それでもそこに生きると決めた人たちの営みが、明るくなるにつれて次第に動き出していきます。『いしのまきのあさ』の写真にはそんな新しい命の鼓動がたくさん詰まっています。『復興』という正解なき大きな問題の前に変化し続ける今の石巻の景色は、災害大国日本に住む人にとって決して他人ごとではなく、誰もが見ておくべき景色だと思います。『いしのまきのあさ』の写真から一人でも多くの方が石巻に興味を持つキッカケになることを願っています。

鈴木　省一

1977年　神奈川県出身
宮城県石巻市在住

2000年　文教大学 人間科学部 卒業
2001年　（株）松濤スタジオ入社
2003年　消 忠之に師事
2006年　独立
2011年　4月 ボランティアとして初めて石巻へ
その後にピースボート災害ボランティアセンター専従スタッフとして約3年間様々な活動に従事する
2014年　写真家として再始動
2017年　石ノ森萬画館にてグループ展開催
2018年　牡鹿半島の小さな漁村に住み、漁業に従事しながら写真を撮り続けている

同時開催

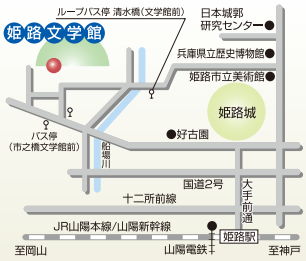
石ノ森章太郎生誕80周年記念

石ノ森章太郎とジュン展

会場／北館 特別展示室

石ノ森章太郎の“分身”とも呼ばれる“ジュン”の貴重な原画を多数展示します。また展覧会オリジナルグッズの販売やワークショップ、スタンプラリーなどのイベントも開催！

姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE

〒670−0021 姫路市山野井町84番地
TEL.079−293−8228
http://www.himejibungakukan.jp/

アクセス
- JR・山陽電鉄姫路駅より神姫バス9・10・17・18番のりばで乗車6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分。城周辺観光ループバスで乗車10分、「清水橋（文学館前）」下車、西へ徒歩3分。
- 山陽自動車道姫路東I.C.あるいは姫路西I.C.下車約20分。
- 姫路バイパス中地ランプ下車約15分。